

令和7年度 第2回江別市かわまちづくり協議会 会議録（要点筆記）

日 時：令和7年9月19日（金） 14：00～15：30

場 所：江別市民会館37号室

出席委員：小篠隆生会長、鴻野徹副会長、柏村章夫委員、天井一斗委員、境珠美委員、武藤静香委員（計6名）

欠席委員：林敏昭委員、林匡宏委員（計2名）

事務局：経済部長、経済部次長、経済部企業立地推進室長、経済部商工労働課長、総務部財務室契約管財課長、企画政策部政策推進課長、都市計画課長、経済部観光振興課長、建設部管理課参事、都市建設課参事、建築住宅課長、土木事務所治水課長、教育部郷土資料館長、商工労働課主査（1名）、ほか1名

アドバイザー：江別河川事務所（4名）

傍聴者：なし

会議概要

（開会）

1 議事

（1）報告事項

ア 協議会等の開催結果（説明：事務局 商工労働課）【資料1】

・小篠会長

手元に「かわまちづくりフェス2025」の実施報告資料もあるが、こちらの資料の説明はいかがか。

・商工労働課主査

林匡宏委員が作成した資料としてお預かりしている。私自身、イベント当日に参加したが、子どもたちも含めて多くの方が楽しまれている様子だった。

・小篠会長

イベントに参加した委員はいるか。

・天井委員

当日は、シャボン玉ショーを運営する私の団体に林氏から依頼があり、イベントに関与している。全体をみても良いイベントであったと感じているが、一方で、前日の雨の影響により足元が悪かったのが少し残念に思う。

・小篠会長

林氏から、当日のイベントに関する報告等を承っており、このイベントは大川通地区高水敷のポテンシャルを把握できてよかったと思っているとのことであり、今後も継続して実証実験を行い、土地の利活用の必要性を検証していきたいとのことであった。この意見について、江別河川事務所としてはどのように考えるか。

・江別河川事務所

林氏や当日参加した職員から話を聞くと、雨によるぬかるみ等、現状の基盤の整

備には課題があると認識している。今回の実証実験によって出てきた課題に対して、今後国で対応できる部分と、運営していく主体で整備する部分のすり合わせを行っていきたいと考えている。

・小篠会長

前日から雨が降っている中でも多くの来場者がいたようで、イベントとしても実証実験としても効果があったように思える。

来場者アンケートの結果をみても、9割が満足しているとの回答を得られており、好評だったことが伺える。

イ かわまちづくり事業の進捗状況（説明：事務局 商工労働課）【資料１】

・鴻野副会長

実施予定事業として、飲食店のテナント出店を計画されていると思うが、同時進行で出店打診をしているのか、設計が確定してから行うものか。

・商工労働課主査

テナント出店については、運営事業者が交渉を進めている最中である。内容については、正式なオープンが見込まれる際に、皆様に周知したいと考えている。

・小篠会長

配置図をみると、建物の前面に駐車場をとれるよう、道路から下がるように設計されているが、建物自体はどの場所になるか。

・商工労働課主査

会社通り側からみて、倉庫と同位置になるように下げ、また、倉庫との間にキュービクルを設置するため、銀のしずく側によった配置となる見込みである。

・小篠会長

川側に対しては、下がる配置となるか。

・商工労働課主査

資料内の配置図にあるように、国と市の土地の境目がすでに決まっているため、そのラインを考慮した上で下げる配置となる。

・小篠会長

建物自体は縮小することになるか。

・商工労働課主査

そのとおりである。

・小篠会長

今の建物の外観をある程度模した新築の建物になるのか、今の建物の部材を生かした改修となるのか。

・商工労働課主査

基礎・土台から更新する必要があるため、これまでの意匠を考慮しつつ改築することとなる。

・小篠会長

部分的に、今ある部材を再利用することはあるか。

・建設部建築住宅課長

今ある建物の構造体については改築することになるが、雨戸や納戸の部分等、歴史性を感じる箇所については再利用することで考えている。

・小篠会長

内装については、再利用の予定はあるか。

・建設部建築住宅課長

階段などの意匠性の高い部分については、なるべく復元できるよう配慮したい。

・経済部次長

すでに腐敗が進んでいる躯体については入れ替えつつ、歴史性や意匠を考慮し、シンボリックな部分について残すことで、岡田住宅であることが認識できる建物にしたいと考えている。

一方、先ほど申し上げたとおり、入札が不調になっていることも鑑み、現状の設計内容を見直す必要が出てきている。残せるものは残していきたいが、予算との兼ね合いも検討し、設計内容も含めて最大限どこまでできるのかを再精査している段階である。

・柏村委員

過去に話があったものと思うが、倉庫と住宅の後ろにある多目的スペースには駐車できるスペースがあるのか。飲食店が入った後、一般のお客様が駐車できるスペースはどの程度確保されているか。

・商工労働課主査

多目的スペースは、イベントを実施していない通常時は駐車スペースとして使用することを想定しているが、台数までは把握していない。

・小篠会長

多目的スペースであることから、白線等を引く予定はないという認識で良いか。

・商工労働課主査

そのとおりである。

・小篠会長

先日、市職員と一緒に多目的スペースの現地確認をした上で、平板ブロックの材種を決定した。国管理部分についても、同材種を使用するという認識でよいのか。

・江別河川事務所

そのとおりである。

・小篠会長

先ほど事務局から説明があったとおり、建物の位置が道路側からみて右側にずれ、銀のしずくとの間にも歩道が整備される。また、江別消防出張所側についても、堤防に階段が作られ、歩道も整備される。ただ、こちら側の歩道は、多目的スペースにもつながっていることから、車が通ることも想定されているもの。

紆余曲折あったが、当初のかわまちづくり計画の考え方に基づいた整備になっていると考えられる。

ウ 江別河川事務所からの報告（説明：江別河川事務所）【資料２】

・小篠会長

堤防の水際の植生は撤去されるものか。

・江別河川事務所

工事の作業の中で撤去する予定である。

・小篠会長

撤去するのは倉庫周辺のみとなるか。その他部分も撤去されるか。

・江別河川事務所

自然に繁茂するものであるため、一連ですべて撤去できるものではないが、全体のバランスをみて作業するものと考えている。また、漁業が行われる場所でもあるため、漁業関係者と調整をしながら検討していきたい。

・小篠会長

現状見えている、コンクリートの立ち上がりの壁は撤去されるものか。

・江別河川事務所

撤去する。その上で、天端についてはアスファルト、法面については植生を張ることを想定している。

・小篠会長

工事に当たって、進捗についての市民への報告はどのようにするか。

・江別河川事務所

工事の実施に当たっては、近隣住民へは工事の実施前に今後の工事予定等を説明している。そのほか、かわまちづくり協議会等において随時進捗を報告していく。

・小篠会長

昨年８月に行った説明会のような形での説明はしないのか。

・江別河川事務所

現状、住民説明会を行う予定はないが、地域住民からの要望やかわまちづくり協議会のスケジュール等を勘案して、必要に応じて実施したい。

・小篠会長

かわまちづくり協議会から説明会の提案を出すことも可能か。

・江別河川事務所

ぜひお願いしたい。利活用等の運用が今後決定していく中で、必要な基盤等が具体的にイメージできるようになってくると思う。その都度協議をしていきたい。

・小篠会長

大川通地区の高水敷のイベントの際は、整備された管理用道路に沿ってキッチンカーが配置されたということか。

・江別河川事務所

そのとおりである。今後、イベントを常設していくという話もあったため、どのように使っていくのか等を協議していきながら整備を検討していきたい。

・小篠会長

通常時は管理用の道路であるが、イベント時でも活用できる設備ができたと思う。

・鴻野副会長

管理用道路は、さらに広がることはないのか、

・江別河川事務所

広がる予定はないが、今後のイベントの実施状況によっては、検討していきたい。

・小篠会長

先日のイベント実施主体と直接協議をしていくという認識で良いか。

・江別河川事務所

そのとおりである。

・小篠会長

実証実験をやっていくことで、どんな設備が必要で、どんな活用の仕方が相応しいか具体的に見えてくると思うので、今後も継続していくことが望ましいと思う。

エ 今後のスケジュール（説明：事務局 商工労働課）【資料１】

（質疑等は特になし）

(2) 協議事項

ア 今後のかわまちづくりの推進体制について（説明：事務局 商工労働課）【資料１】

・柏村委員

フェーズが移っていく中で、具体的に実働部隊が協議できる組織があるのは良いことだと感じた。かわまちづくり協議会で今まで協議した内容が引き継がれるとなお良いと思う。

・鴻野副会長

倉庫の移転や住宅の活用について、目途が付いたことでハード整備としては区切りが付いたように感じる。今後は、こういったソフト事業を行っていくかなど、地元の各団体にも参加してもらって協議していくことが大事であると思う。

・小篠会長

事務局への質問として、資料内の江別市かわまちづくり計画から抜粋しているイメージ図は、江別市かわまちづくり計画を策定した際に定めた実施体制であると思うが、このイメージ図の協議体の在り方は、推進体制を上から見ているようになっている。この在り方は今後も継続する認識で良いか。

・商工労働課長

これまでの協議会は、協議いただきたい案件があった際に設置しており、計画の策定や旧岡田倉庫の整備方針、堤防エリアを含むグランドデザインなどの方針を決定してきていただいております。今後についても、同様に必要に応じて設置していきたいと考えています。

また、設置に当たっては、これまでの協議会の中でも、協議会に何を求めるのかというご意見もいただいているため、設置の目的を明確にする必要があると考えており、例えば、計画の進捗管理を協議会でやるということになるのであれば、事業を推進する実働メンバーとは異なる委員で組織することなども検討していく必要が

あると考える。

・小篠会長

江別市かわまちづくり計画は、かわまちづくり支援制度に則って策定されたものだが、このかわまちづくり支援制度を今後も継続していかないと、イベントの際に国から支援を受けづらくなってしまう。国土交通省では、かわまちづくり支援制度の事例集を公開しており、ほとんどの事例で協議会が設置されている。国と江別市という別組織での整備・運用において、それぞれに対して調整をしていく役割を担っている。

また、国からの特区指定等、大きな視点で見ている組織体は必要であると思うのが実態かと思うので、各委員におかれては、そういった部分も認識した上でご意見をいただきたい。

・天井委員

事例として、協議会を設置していないと、支援は受けられないものなのか。

・小篠会長

協議会があった方が、かわまちづくり計画の目標に沿ったイベントであるかどうかの位置づけなども協議できるため、組織しているのが一般的であると考えている。

・天井委員

江別市の現状に照らし合わせると、連携会議が提案した内容を協議会に諮るというやり方が一般的になるということか。

・小篠会長

そういうことになる。プレイヤーの集団だからこそやりたいこと・できることがあると思うが、そういった提案に対して全体的にみて助言をする組織になるものと思われる。

・天井委員

私は先日の高水敷のイベントにプレイヤーとして参加しているが、連携会議と兼任で協議会の委員も務めるのは組織の在り方として矛盾を感じるが、どちらかを辞退しなければいけないような仕組みになるか。

・経済部次長

そのような議論については、今後の検討事項になると考える。会長の説明を踏まえると、協議会は全体を俯瞰するのが協議会の一般的な役割であると理解する。その上で、協議会はどこからどこまでを協議し、また、連携会議がどこからどこまでをやるのかのルール決めをする必要がある。例えば、一つの大きな会議体があって、その中に部会のような一定の組織を作り、どちらにも属することができるルールをもし作るのであれば、先ほど天井委員がおっしゃったどちらの組織にも属することを妨げるものがない組織形態も可能ではあると考える。一方で、協議体は俯瞰で管理監督するべきであるという意見が多いのであれば、両方に属することはできないルール設計もできる。

今後の計画推進のために、どのような形態での議論の場を作っていくかを、委員の皆様のご意見を賜り、最大限汲み取った上で検討していきたいと考えている。

・小篠会長

協議会を作った当初は、協議会内だけでの議論では進まないこともあった。まちづくりに関して意見をお持ちの方もたくさんいらっしゃったので、協議会の下にワーキングを作成し、より多くの意見をいただきながら計画の策定にあたった経緯もある。その際は、どちらの組織にも属する委員がいたため、そのようなやり方も可能であるとする。

ただ、協議会での議論と、現場である連携会議での議論の内容は違うものになるであろうとする。イベント等の位置づけ等はどうかを協議する場が協議会の立ち位置になると考えるがいかがか。

・境委員

協議会設置当初から、ワーキング等も含めて委員として参加してきたほか、地域活性化のためにイベントの計画や実施等に携わってきた。ある程度の区切りであるとはいえ、かわまちづくり事業が終わりなく続いていく中で、なんらかの協議体は必要であるとする。

今後の旧岡田倉庫と旧岡田住宅の運用において、ただのビジネスの箱になるのではなく、江別市の歴史を感じる建物であり続けなくてはならないとする。

また、最近は、プレイヤーとして動くことがより多くなってきており、大学の先生や学生達と連携して、条丁目地区の歴史をデジタル化して未来に残していき、倉庫で上映するなどの構想もある。各プレイヤーのかわまちづくり事業に対する関わり方はそれぞれだと思うが、市なり協議体なりが統括できるべきであるとする。

・武藤委員

意見をまとめる組織は必要であるとする。境委員がおっしゃったように、ただのビジネスの場所となってしまうのではなく、子ども達も安心して楽しめるような空間であってほしい。

・小篠会長

パブリックな場所として整備されていく中で、今後、維持管理をしていくに当たり、民間または市民の力が重要になってくるというのが、かわまちづくり計画の根本であると理解している。

現在、江別市のかわまちづくりが難しい局面を迎えているのは、運営事業者が事業を実施するに当たり、事業の維持管理経費を捻出することだけに終始してしまうおそれがあり、かわまちづくりを推進していくための費用を得ることが困難になってしまうことも考えられる点にある。

この課題の解決のためには、事業に関わるさまざまな人たちに対して、福利厚生等が機能するように公共的な組織がその役割を担う必要があるとする。

・柏村委員

今の形の協議会としては役割が終わっても良いと思う。ただ、機能として、協議会のような役割を担う組織は必要とする。イベントや事業をするに当たっては、その理念がベースにあって計画されるものであるなので、その部分と具体的なアクションを起こす組織が別となるとやりにくいように感じる。理想は、連携会議が協議

会の機能も担うのが良いと思うが、目的とやるべきことが相違するのであれば、連携会議とは別の形で協議会も存続する方が良いと感じた。

・小篠会長

協議会委員の任期も迫ってきている。今後の協議会の存続については、この協議会内で結論を出す必要がある。委員の皆様の意見を集約すると、機能として協議体のような組織は必要であると考えられるがいかがか。

・鴻野副会長

継続性という観点では、ビジネスがないとどこかの段階で行き詰ってしまう。ただ、すべてのビジネスを許容するのではなく、何らかの縛りを設けられるような組織体が必要であるとする。

・小篠会長

運営がビジネスとしてお金で回っていなければいけない。イベント等で収益を得て、それをもって次のイベントを実施していく。鴻野副会長がおっしゃられていたとおり、その運営に当たっては一定のルール設定が必要であり、その役割を担う組織体が必要である。

委員の皆様のご意見のとおり、かわまちづくり事業を継続して運営していくために、協議会を存続するという事を協議会の総意としたいと思う。

・経済部次長

協議会の取扱いについては、今ほどご協議をいただいたとおり、委員の皆様から市に対してご意見を賜ったものと承知した。併せて、市から提案させていただいた連携会議の設置に関しても、同意をいただいたものと認識してよいか。

・委員各位

異論なし。

(協議結果)

協議会として、今後の協議会の在り方については存続することを総意とし、また、連携会議については設置することを承認する。

2 その他

・ 特になし

(閉会)

以上